

「計量」から見る東南アジア社会

—伝統文化の継承とその背景—

Southeast Asian Society from the perspective of "Weights and Measures"

—Succession of traditional culture and its background—

関本 紀子¹, 大澤 清二², 下田 敦子², 松村 茂樹¹

Noriko Sekimoto¹, Seiji Osawa², Atsuko Simoda², and Shigeki Matsumura¹

¹大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科, ²大妻女子大学人間生活文化研究所

キーワード: 東南アジア, 計量, 伝統文化の継承

Key words: Southeast Asian, Weights and Measures, Succession of traditional culture

1. 研究目的

本研究は、東南アジア社会の変容と独自性を、「伝統的・慣習的尺度および計量」の観点から、特にベトナムに焦点をあてて分析・解明するものである。

一般的には、「伝統・慣習は近代化とともに都市部から消滅する」とされる。しかしながら、近代化に伴う社会変動が激しいベトナムでは、農村部よりも都市部により長く伝統的計量器(竿秤など)が継承されている事例が報告されている。そのような一般論では説明できない事例にこそ、その社会を読み解く重要な手がかりが隠されていると考えられる。

これまで研究代表者である関本は、歴史学的手法で特に植民地時代(19世紀後半から20世紀前半まで)を対象として、度量衡政策から人々の生活の中で使用されていた度量衡に至るまで、地域も北部、中部、南部を網羅的に、ベトナムの度量衡と社会を解明してきた。その中で「計量」に対するベトナム人の意識は、ベトナムの村落共同体や人間関係の特徴を色濃く反映するものであったことを明らかにした。こうした人々の意識の伝承と変容の過程を分析することは、現代ベトナム社会の固有性、ベトナム人特有の特徴を「計量」・度量衡の視点から具体的に検証することにつながる。

そこで、本研究では、人間本来の計量に対する認識、慣習的尺度の実態と活用、近代化が進む現代社会の伝統的文化・意識の維持・変容を、「計量」の観点から文化人類学的に調査・分析することを学術的な「問い」とし、伝統的計量の継承と変容

の過程から、現代ベトナム社会の特質を明らかにすることを研究目的とした。

2. 研究実施内容

ベトナムにおいて、計量に関する現地調査は、ある特定の職業(大工など)・地域における研究を除き、本格的に進められていない。また、計量の観点から社会の特質を明らかにする、という視点での調査は管見の及ぶところみられない。そこで、本研究に対して、すでにミャンマーやタイといった同じく東南アジア地域における度量衡、計量に関する研究がある共同研究者からのアドバイスも得ながら、2019年8月12日から8月26日まで、ベトナム、ハノイおよびその近郊で現地調査を行った。具体的な内容は以下のとおりである。

(1) ベトナム・ハノイ国家大学ベトナム学・科学発展院における研究者へのインタビュー調査

計量に関する現地調査・研究を始めるにあたり、まず受け入れ機関であるハノイ国家大学ベトナム学・科学発展院で、ベトナムにおける、そしてベトナム人にとっての「計量」概念に関して、および今後の調査・研究の方向性について、意見を伺った。インタビューに応じてくださったのは歴史研究者である同院院長のファム・ホン・トゥン教授、同地域研究部部長で、少数民族地域の専門家であるファム・ヴァン・ロイ教授である。両氏からは、ベトナムの風習や言い回しに見られる度量衡の事例からベトナム人の計量意識を探る可能性や、継承されている慣習的度量衡の地域的範囲とその差異、近代化に伴い失われていく計量単位・

用具の種類、減少時期やその背景となる環境変化などについて、有益な情報を得ることができた。

(2) 科学技術省度量衡品質基準総局におけるインタビュー調査

ベトナムの度量衡に関する国家機関である科学技術省度量衡品質基準総局において、同局度量衡院科学管理業務室長のズオン・クオック・タオ氏にインタビューすることができた。タオ氏からは、ベトナム各地の生活環境や対象によって重量での計量を志向するか、容積での計量を志向するか、具体的な事例を交えてその差異と変化についてお話を伺え、今後の調査地域、調査対象の選定に関して貴重な示唆を与えていただいた。また、現行の国際単位系 IS 以外にも、法令の中で容認されたベトナム独自の慣習的度量衡の種類や地域差の資料などを入手することができた。

(3) ハノイ市内の市場および旧市街における現地調査

ハノイ市内の3つの市場(chợ Ngã Tư Sở, chợ Phùng Khoang, chợ Bách Khoa)と、旧市街において、計量器や計量単位についてのインタビュー調査を行った。市場の中において竿秤などの旧式の計量器の使用は確認できなかった一方で、旧市街を行き来する行商人においては、依然として竿秤を使用している姿が確認できた(図1参照)。



図1. 竿秤を使って果物を売っている行商人。ハノイ市旧市街にて筆者撮影。

今回は現在普及している台秤を使用している行商人、旧来の竿秤を使用している行商人それぞれにその理由などの聞き取りを行った。しかしなが

ら、行商人は一か所に長くとどまっていると公安警察に摘発される恐れがあるため、インタビュー調査は非常に困難であった。

(4) ハノイ近郊農村における現地調査

ハノイ市から約80キロの紅河デルタに位置するハイズオン省チーリン市(Tỉnh Hải Dương, Thành phố Chí Linh)において、市場2か所(chợ Trại Sen, chợ Sao Đỏ)および木材加工・大工の職人に対しても、慣習的計量器の使用状況を主に調査した。市場内では竿秤などの旧式計量器の使用は認められず、行商人についても同様の傾向が見られた。チーリン市内では、3人の職人の工場に足を運び、作業の様子と使用している道具を調査した。木工職人の現場では、デザインをパソコンで取り込み、自動で彫刻を行う機械が導入されているなど、すべての道具が近代化され、旧式の計量器も見ることではできなかった。しかし一方で、建築や各家庭に設置される祭壇の主要な寸法を決定する際、その吉凶を占う尺である魯盤尺(thước Lỗ Bang)は、依然として使われていることも分かった。現在使われている魯盤尺は、インチ表示とセンチ表示が一体化した近代的な巻き尺であり(図2参照)、この巻き尺は都市部の工具店でも簡単に手に入る市販品であることも確認できた。



図2. 魯盤尺の巻き尺
ハイズオン省チーリン市にて筆者撮影

(5) その他

上記以外にも、ハノイ国家大学内で教員や出入りしている小売業者販売員などにも聞き取りを行った。また、今後行商人を対象とした調査を行う場合、行商が認められている場所、形態などを確認した上で調査が必要になるため、行商に関する法律文書入手した。

3. まとめと今後の課題

本研究により、第一に、北部ベトナムにおける都市部と農村部の違いが度量衡の側面から観察された。研究代表者である関本のこれまでの調査からも、北部以北に位置する高原地帯の農村においても、行商人の減少、竿秤といった伝統的計量器の消滅が観察されていた。それと対照的に、ハノイ市内では行商人および行商人による竿秤の使用は、依然としてみることができている。

これらの理由については、それぞれ次のような背景があると考えられる。都市部では共働きなど農村より多忙な生活を送る人が多いため、行商人が重宝されている。そして行商人の一部は軽量で使い慣れた竿秤の使用を継続していることから、竿秤が継承されている。一方、農村部においては、人々の暮らしには比較的時間に余裕があり、加えて近年近代的な市場の整備が進んだ影響で、娯楽を兼ねて近代的市場へ出かけることを志向する傾向がみられる。その結果、行商人の需要は減少し、計量器に関しても新たに整備された市場内では台秤が主流となっているのではないかと考えられる。この点に関してはさらなる検証の必要があるが、今回の調査で紅河デルタの農村部においても同様の傾向が確認できたことは大きい。

第二に、都市部においても、農村部においても、住居や祭壇の寸法を決定する際にその吉凶を占う魯盤尺は依然として用いられており、さらにその形はより簡便な巻き尺に姿を変え、市販されていることが確認できた。このことから、急激な社会変化、近代化の中でも、祖先崇拜の慣習は変わらず継承されていること、住居を構える際の風水信仰も根強く残っていることが窺える。ベトナム人にとって何が大切か、変わりにくいものは何か、度量衡の側面から一つの可能性を示すことができたと言える。

第三に、専門家へのインタビュー調査から、ベトナムの計量制度、計量に関する慣習は、大きな地域差があることが改めて確認できた。

今回の共同研究の成果として、これまで本格的に行われてこなかったベトナムの「計量」に関する現地調査の今後の方向性、学術的展望、遂行する上での問題点や明らかにすべき点が明確になったことが挙げられる。具体的には、今後以下のような調査へと発展させる予定である。①現代ベト

ナムにおける度量衡から見る地域性について：北部・中部・南部の地域差について、ハノイ国家大学歴史学部およびホーチミン人文社会大学の協力を得て、アンケート調査（学生本人とその祖父母、両親の国際単位系以外の慣習的度量衡の使用について世代間調査）を行う。また、それぞれの地域の行商人へのインタビュー調査を並行して行う。中部についても、同様の調査ができるよう現在調整中である。②伝統的計量器から現代的計量器への移行：現代のベトナムの代表的計量器生産メーカーおよび伝統的計量器を生産している村における聞き取り調査を行う。③消滅の危機に瀕している伝統的度量衡の実地調査：少数民族地域における現地調査を行う。

本研究が対象とする伝統的な計量も、年々数が減少しており、今後調査が難しくなることは否めない。世界中で均一な価値観、生活が共有されていく傾向にある中、その国の社会、人々の生活に見られる独自性、個性も失われつつある。こうした現状から、本研究が行う現地調査は、伝統的な計量についての記録・保存という意義も有しているといえ、今後も継続してこの課題に取り組んでいきたい。

4. この助成による発表論文等

「ベトナムの現行計量法について：日本の計量法との比較を通じて（仮題）」を現在投稿準備中であるが、投稿先などは未定である。